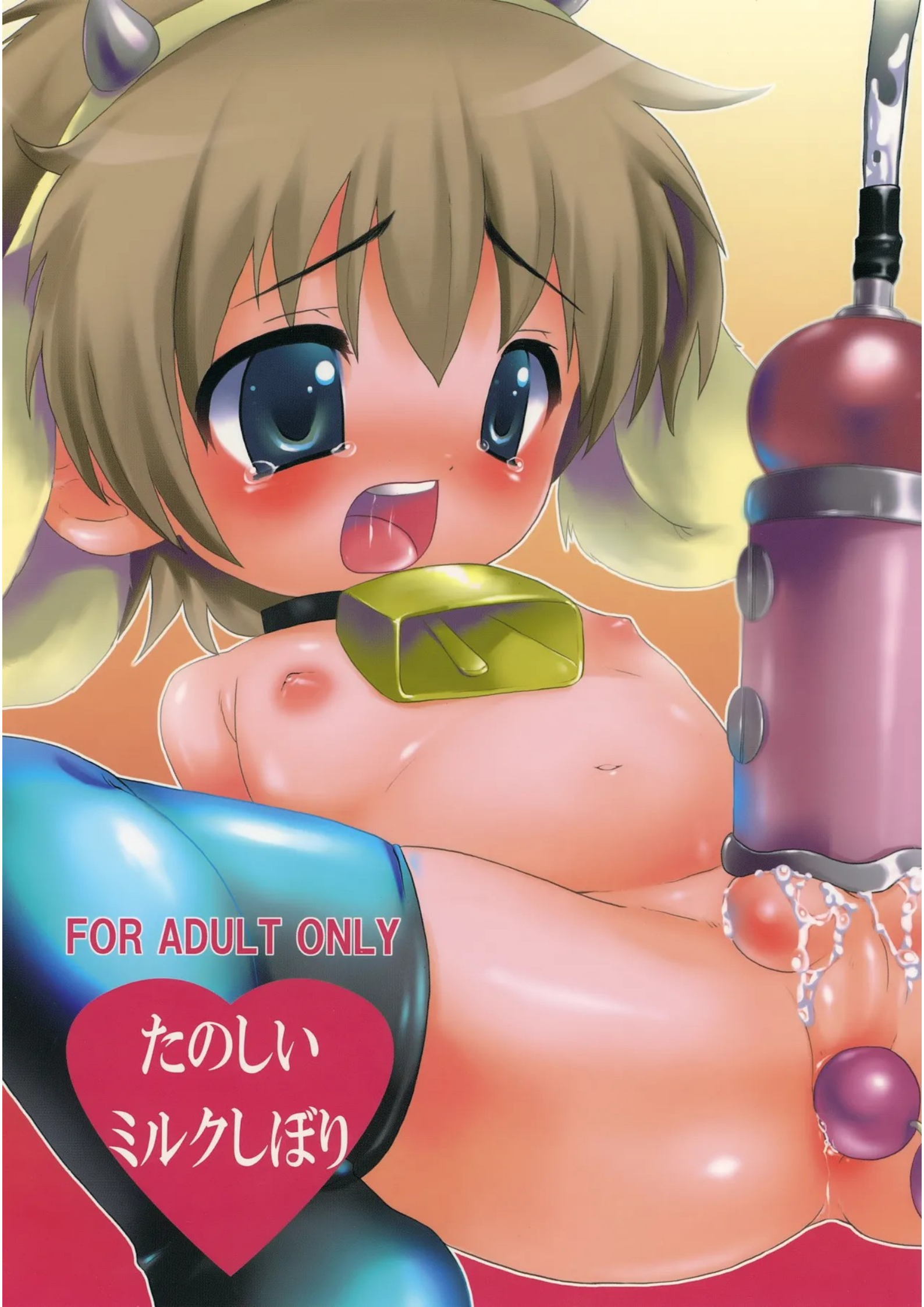




FOR ADULT ONLY

たのしい
ミルクしぼり

森本 裕也(モリモトユウヤ*〇年6組)

■一人っ子の甘えん坊。
パパとママにべったり。

■好きな食べ物・オムライス。
嫌いな食べ物・ピーマンときゅうり。



裕也は、両親の愛情をたっぷり受け、
すくすくと育っていた。



今日、裕也はこの牧場に貰われることになった。
様々な経路を辿り、ここで働らく事が決まったのだ。

ほら、
おいで。

ーヤッ

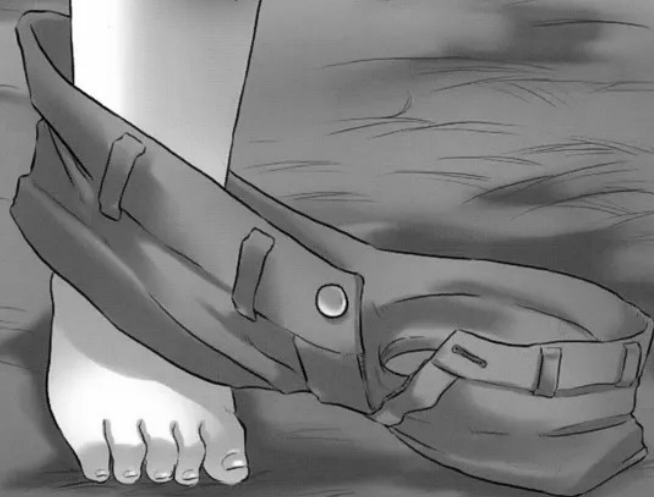
ふる

ふる

ボク、
行きたくないっ

今日からここが
お家だよ。

くっ



うーん



ほり、
半着替えるんだ。

いやっ、
やめてっ

少々手荒ではあるが、我々で無理やり着替えさせる事にした。
服を引きちぎり丸裸にひん剥いていく。
よほど恐ろしいのか、哀願を繰り返す裕也。
これで自分の置かれている状況を、少しは理解しただろう。

まず、ここで働くには「作業着」に着替えなくてはならない。

しかし裕也は、泣いてばかりで一向に着替える気配をみせない。
よほど甘やかされてきたのだろう。泣けば許してもらえると
思っているようだ。

これでは埒が明かない。



そうこうしている間に、ようやく着替えが済んだようだ。
なかなか似合っている。

この「作業着」を着衣することにより、裕也はここで
「子牛」である証になる。
そして「ミルク絞り」が、ここで課せられた仕事だ。

それでは早速、仕事を教える事にする。
まずはウォーミングアップから。



すっかり縮こまってしまった
幼いペニスを摘み、優しく揉んでやる。
スベスベしていて、かなり柔らかい。
敏感な箇所を弄られて、
体がビクビクと反応している。
特に先端が弱いようだ。



もう少し抵抗するかと思っていたが、
先ほどの手荒い着替えが効いている様だ。

あああ

あ

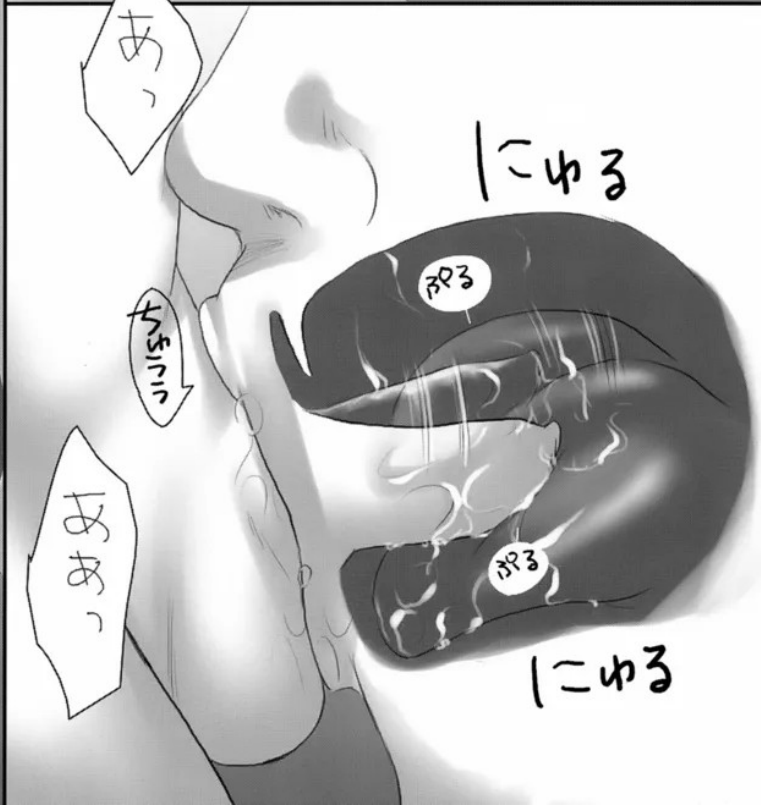
ビクッ

ビクッ

裕也君の皮、
よく伸びるね。

キュー

ん





ペニスも勃起したところで、早速「ミルクしぼり」を始める事にする。

ミルクの出をよくするために、お尻も同時に責めてやる。

潤滑油を垂らして…



たくさんミルクを出すんだよ。

ひゃあ



ボクのオチンチン、おほーいじゃな〜いよあつ

どうやら「ミルク」の意味を分かっている様だ。



ああ

ああああ

あああ

しかし、美味そうだ。
できれば熟した先端に舌を這わせ、執拗以上に
舐り回し、「ミルク」の直吸いをしたい所だが、
皆が見ているので今日は我慢する事にした。

皮を剥きながらリズミカルに扱いてやる。
気持ち良いのか、すでに先端はヌルヌルだ。

ミル

ミル

ミル

ミル

ミル

ミル

ミル

ミル

ミル

ミル

ミル



おおー

すると、幼いペニスは尿道口をバクバクと
痙攣させると、「初ミルク」をバケツの中に、
勢いよく吐き出した。
実に濃くて美味そうなミルクだ。

周りから歓声上がる。

初ミルクだな

はっ
あ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

ハッ
ハッ

その時、皆が見ていることを思い出したのか、
裕也は恥ずかしそうにうつむいた。

あ

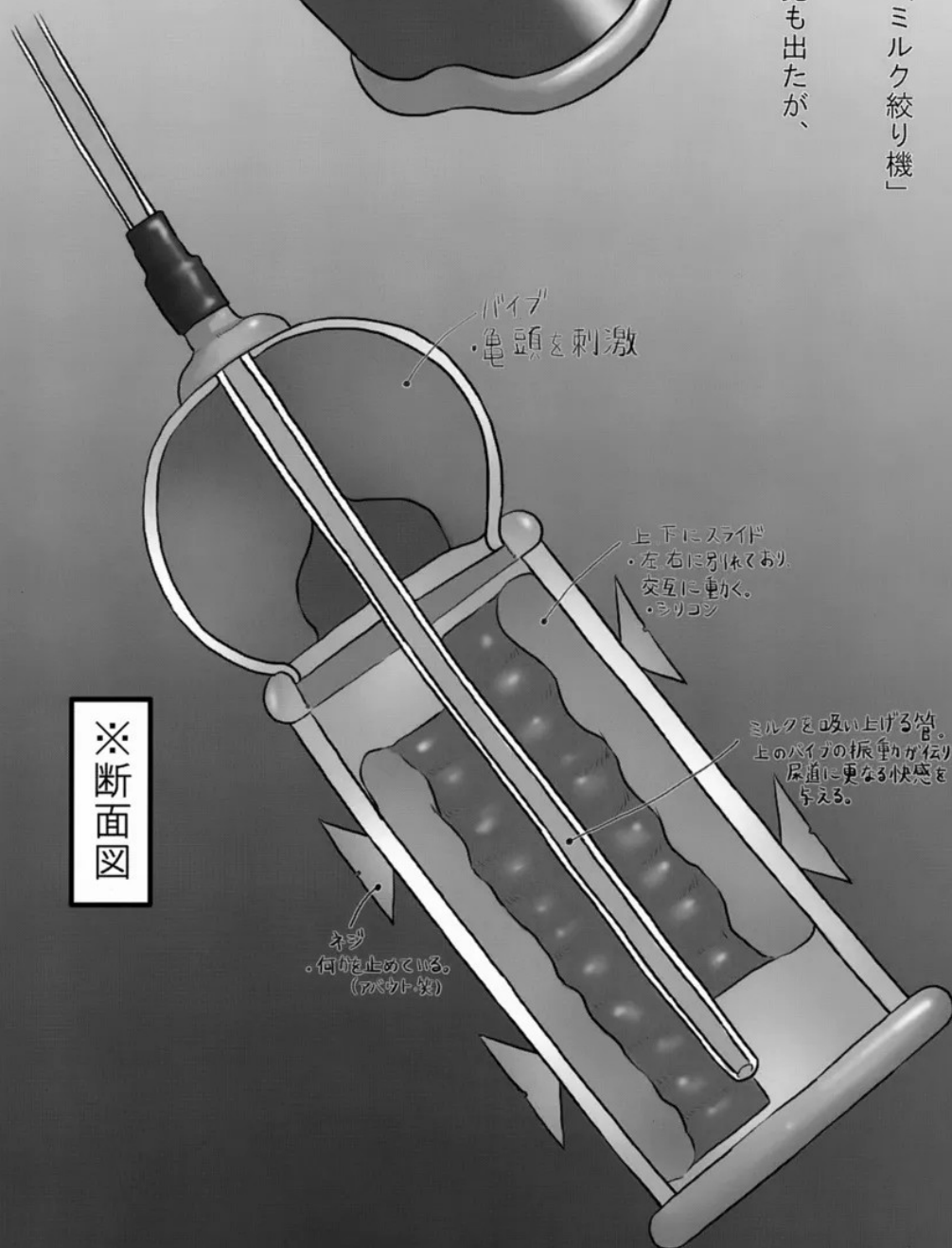
出た、出た。

おー

う
あ
あ
っ

ミルク絞り機

さて、初ミルクを出したところで、次はこの専用の「ミルク絞り機」を使ってミルクを絞る事になった。
初日からいきなりハードなんじゃないか、という意見も出たが、ここでそんな甘いことは通用しない。



※断面図

こいつで、裕也の「おチンチンミルク」をたっぷり搾り取ってやるう。
キンタマに一滴も「ミルク」が残らない程に。

どんな顔で悶えるのか、今から楽しみだ。



と、その前に、尿道に管を通して慣らしておく事にした。

かなり痛がるのではないだろうかと若干心配していたのだが、驚いたことに、管を咥えたペニスは、扱かれる度に何度もイッたのだ。

嫌がる素振りこそ見せるものの、ペニスは美味しそうに管にしゃぶりつき、勢いよくミルクを送り出している。

これはかなり期待が出来そうだ。

「ミルク絞り機」にローションを垂らし、
滑りを良くしたところで、裕也のエッチな
ペニスを機械に挿入する。



暫くすると、裕也の動きがだんだん鈍くなった。
うつむいたなり固まり、ミルクも出していないようだ。
先ほどまでの元気はどこにいったのだろうか。
機械が壊れたのかもしれないので、
一旦取り外してみることにした。



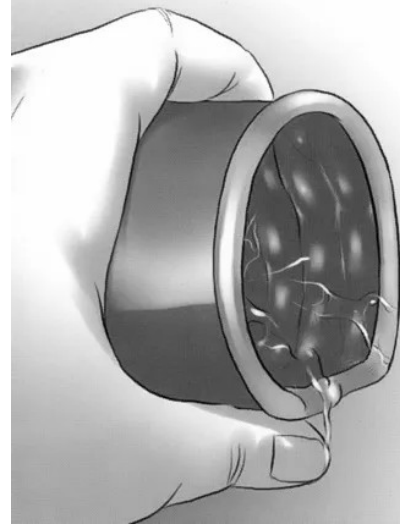
ちがいのっ

本当に
出ないのっ

おかしいなあ？
壊れちゃったかなあ

すると裕也が、もうミルクが出ない、と涙を流し、訴え始めた。
もちろん我々はそのことに気づいていたが、このまま意見を聞いてしまうと、甘えになる恐れがあるので、そのまま気づかないフリをしミルク絞りを続行することにした。

ダメ...



裕也君のおぼいはい、
ミルク出ないのかな？

あめまっ

ゴボッ

ドッポッ

ドッポッ

△ニッ

△ニッ

△ニッ

△ニッ

ズポッ

ズポッ

△ニッ

△ニッ

△ニッ

△ニッ

いきつぱなしのペニスを更に機械で抜き、
機械の故障を調べるフリをする。
その傍ら「ミルクの補充」もしつかり行う。

そう、まさにこの光景こそが、これから裕也が
「ここでしなくてはならない仕事そのもののだ」

いっぱいミルク
入れてあげるから
ね？

ほら。
たくさん飲むんだよ。

やめやめ、



ダメッ
抜いちゃダメエッ

その後も入れ代わり立ち代り、裕也の
体を我々は犯し続けた。

そして何度目かの事。ペニスを抜く瞬間、
急に裕也が血相を変え、抜くなと訴えた。
よっぽどアナルが好きなのか、と思ったが
どうやら違うらしい。

アナルを激しく突かれ、そして
ミルクをたっぷり飲まされた為、
我慢できない程の便意を催した様だ。
すっかり頭を出した裕也の便。
隙間からミルクがこぼれ出している。
どうするか迷ったが、ミルクも出ない
ことだ、この際排便をさせてやることにした。

もちろん、ここで出すよう命令を下す。
そして「動物」のようなスタイルで、だ。
少し戸惑ったが、もう我慢の限界らしく、
我々にケツを向け、踏ん張り始めた。

うんちが...
うんちがッ



んっ

ぐっ
ぐっ

ふと目を落とすと、糞をひり出しながら
ペニスを勃起させている。
こいつは相当な淫乱だな、と皆で笑い
屈辱心を煽ってやった。

人前で排便するのは初めてだろう。
恥ずかしそうにきばる裕也。

制御の利かないペニスは、尿を垂れ流し、
太いペニスを咥えすぎたアナルは、
すっかり裏返ってしまった。

裕也君、

ウンチに気持ちイイ
でちゅか？

ギャーニ

ビョウ

びる
びる

はっ

カアアアア

ハアハア

うあぁ

ビョウ

ミロク

びん

ナロー

ミロク

ミロク

びん

年生なのに、
ウンチしながらおしっこ漏らし
ちゃたね。



とりあえず仕事内容はこんな感じだ。(最後の排便は除いて。笑)
明日に備えてミルク補充をすることにした。
そう、明日は「ミルク絞り体験」の方に団体の予約が入って
いるのだ。

甘えん坊の裕也にこの仕事が勤まるだろうか、と心配してたが、
この分ならお客様にも満足してもらえそうだ。

これからはこの牧場で、たっぷり愛情を注がれることだろう。

完

post SCRIPT

お久しぶり、もしくは初めまして。眠々です。
この度は「妄想処理場vol.2」を手にとって下さり
ありがとうございました！

当初、WEB限定で発行予定だった本シリーズですが、
いきなり脱線してます。笑
色々事情があつての事です、説明が面倒なので
季節のせいにしておきます。(オイ

それはさておき、今回のテーマは「ミルクしぼり」
だったわけですが、如何でしたでしょうか？
毎度の事ながら、保育園児レベルの文章が痛々しいですが(笑)
、絵の方は頑張って描きました。
お楽しみ頂けましたら幸いです。

さて次回の「妄想処理場」はどんなテーマになるやら…。
また機会がありましたら、宜しくお願いします。

2006.10★眠々

IMPRINT

発行日：2006年10月

発行：終末処理場

著者：眠々

HP & MAIL

<http://syumatsusyorijou.sakura.ne.jp/>
nem-nem@syumatsusyorijou.sakura.ne.jp



Yūsuke

妄想処理場

vol.2



2006.10 * syu-matsusyorijou